

odai

magazine

vol.12





えいがのこと

杉浦俊介

舟を編む

'13 日本

原作 三浦しをん

監督 石井裕也

もう3月ですね。去年にもまして映画を見て
いこうという意気込みがあります。今年はず、
ギンレイシネマクラブに入会してギンレイホー
ルに通うというのが1月下旬の予定に組み込ま
れていたのですが、予定というのは所詮予定で
して、まだ入会していません。真珠のボタンを
逃したので、更にわからなくなっております。

そういうわけで、定額動画配信サービスとい
うのは便利ですね。今回はNETFLIXを
利用して見ました。久しぶりに邦画を見ようと
したら、松田龍平だし見てみようかな、と。
前置きなく見始めたので、舞台が95年のことと

は知らず、なんか携帯が古いとか思っていました。
今思えば、その頃主流だったポケベルも登場し
ていいんじゃないかとか、オダジヨウが「がつ
つり」という言葉を使っているところという
気になりますが、話は辞書を作るというもので
す。



おしえて！



おだいじん

ほい、元気にしとったかん？ おだいじんだに。

ようやく今回は前にピアノの質問をもらった？ 埼玉県のSさんからだに。Sさんのおかげでコーナーが存続してるら。

今回の質問はこれだに！

「家でコーヒーを淹れる時に、今はコーヒーメーカーを使っているのですが、ちゃんとドリッパーを使って淹れてみたいなと思っているのです。

器具を揃えるところから始めなければいけないのですが、いろいろ種類があり迷っています。おだいじん様のオススメとか、淹れ方や豆の保存の仕方とかアドバイスいただけたら嬉しいです。」

これは真面目に答えるべきかやあ。

のん、したらず器具から。ドリッパーを使って淹れたいということだとHARIO V60はやっぱりやりやすいだに。あとはKALITAのウエーブというのもいいだに。ペーパーの場合はやっぱりそのままポイ

と捨てられるところかやあ。抽出の温度とか時間とかは好みだもんで、ググってみりん。あとは、フレンチプレスとか、カフエプッシュみたいのは安定してちゃんと豆の味を味わえるだに。洗う手間を惜しまなければこっちの方がいいだに。

エアロプレスは酸味を際立たせたい場合なんかにおすすめだに。これも淹れ方は色々あるからググるだに。

一応、温度が高いと苦味が出るってのと時間が3分以内とか、もっと早い方がいいとか、あるだに。豆の量は「Coffee Talk」(P12)とかいうのにもあった気がするからそっちを見てみりん。

豆の保存は、わしは特に冷蔵庫とか推奨しとらんだに。2週間以内には飲み切れるくらいの豆を買って日々の変化を楽しむのがいいって考えだに。それで自分の好きなポイントを見つけるのがいいとお思うだによ。

それじゃ、さいならぼん！

トリミング

栗原 論



128段の階段の歌

長谷川 至洋

7段目

道ばたにおでんやがある。僕はふつと立ち止まり、おでんを注文した。寒い日だ。湯気だけが、心から優しい。気がつくとな僕は泣いていた。とうか涙が流れていた。それはひとつの現象だ。涙でにじむおでんやの灯が、まるで灯台のようだった。僕は灯台守の気持ちになろうとした。

8段目

それから僕は駄菓子屋に寄った。ふらりと寄ったのでない。断固として僕は駄菓子屋に寄った。うまい棒を3本、立て続けに食べた。静かに考えたかった。駄賃で駄菓子を買うこと。それは無駄の対極の行為だ。無駄なんかない。ささやかな人生に無駄の入り込む余地なんかないのだ。

小台のこと

杉浦俊介

小台という都電の停留所があります。だけどそこは荒川区です。小台という地名は足立区にしかありません。そのように言って小台の人は少しでも上に立とうと思ったりということがひょっとしたらあるかもしれません。

そんな小台ですが、ここにも一件の銭湯があります。小台湯というその銭湯は昔ながらの銭湯で、なんとサウナが無料なのです。

去年で閉まってしまおうとか、今年いっばいは大丈夫といった話が飛び交っていますが、実際問題はなくなると困る高齢者の方なんかもいるので、頑張つて欲しいです。ちなみに自分は中学校の頃に銭湯巡りをしてた頃以来行っていない可能性が高いです。あの頃は、向かいの田中薬局のオヤジが見せるゴルフの素振りとかあって情緒が感じられたのを覚えています。

小台に立ち寄った際には小台湯ーブリュッケかブリュッケー小台湯のはしごを試みてはいかがでしょうか。

映画はこわい (1)

今井飛鳥

『残穢』という映画を観た日の夜、私はいつものように、祖母が生前長らく生活していた自宅一階の和室で、炬燵に入って作業をしていた。すると、九時頃だったか、どこからともなく「……さーん、……さーん」という小さな叫び声が聞こえてきた。耳をすますと、その声はいくらかの間を置きながら、繰り返し聞こえてくる。それはどこことなく、認知症の祖母が夜中に「お父さーん！ お父さーん！」と叫んでいた声に似ていたため、「ついに私にも……でもおばあちゃんならいいや……」などと考えつつ、どうせ家の前のパチンコ屋で誰かが声を荒げているのだろう、ということにして、それほど気に留めなかった。パソコンの画面に集中していれば聞こえないほどの音量だったから。

目が覚めた。いつの間にか寝てしまっていたのだ。眠い目をこすりながらパソコンを閉じようとした時、「……さーん、……さーん……」と、またしてもあの声が聞こえてきた。思わず時計を見る

と、十一時半。パチンコ屋は営業を終了している。少し、怖くなった。おばあちゃんなら良いのだけど、でも、少し、怖い。

二階へ上がると、父がまだ起きてテレビを見ていた。声のことを話そうか迷ったが、何となく言えないまま「おやすみ」とだけ声をかけ、その日は布団に入った。

翌日、職場で同僚にその一件を話すと、「今晚同じ状況をつくつて検証してみてもどうか」と助言されたので、やや鬱々としながらも覚悟を決めて帰宅した。

「ただいま」と母に声をかけると、「おかえり。あ、そうそう……」母はおもむろに話し始めた。

「今朝あんたが家を出たあと、うちの前に救急車とパトカーが

停まったんよ。」

「えっ？」

「ベランダから覗いたら、隣のKさんが担架で運ばれてはつて。階段から落ちはつたそうなんよ。」

「？」

「パチンコ屋の警備員が『助けてー助けてー』いう声に気付いてドアこじ開けはつたらしいわ。」

「!!」

つながった。お隣のKさん宅は一階が車庫で、Kさんは二階で生活されていた。玄関を開けてすぐ、二階につづく階段がのびていて、それが丁度、祖母の部屋と南北で隣接しているのだ。

これはあくまで推測だが、Kさんは夜九時頃に階段から落ち、そこでずともう一方の隣人である身内（義兄）の名を呼び、助けを求めていたが、気付かれず、そのまま眠ってしまい、朝目が覚めて、再び叫びはじめた…。

身動きがとれないほどの重傷を負われたのだと思うと、胸が痛

む。あの時、あの声を聞いたのはきつと私だけだ。もつと耳をすましていれば、父に話していれば。

その後、Kさんが家に戻られたという話は聞かない。

残穢【ざんえ】―住んではいけない部屋―(2016)

監督 中村義洋

原作 小野不由美 脚本 鈴木謙一

出演 竹内結子 橋本愛 佐々木蔵之介

坂口健太郎 滝藤賢一 他

台北の茶藝館

中村 安伸

フィギュアスケート四大陸選手権の観戦のため台北を訪れた。二泊という短い日程である。

到着翌日の午後、茶藝館という中国茶を楽しむことのできる店を体験したいと思い、迪化街という地域へ向かった。乾燥食材や茶器などを商う店が軒を連ねる問屋街で、大きな繊維市場などもある。古くから栄えた商業地域で、日本統治時代の建築物も多く残っており、それらをリノベーションした小綺麗なお店も目についた。目的は雑貨店の二階にある「南街得意」という店である。クラシカルな雰囲気の内装だが、ごく最近リノベーションされたものらしく、清潔に保たれている。

やや明るすぎる窓際を避け、心地よさそうな椅子のある奥まった席に座ると、店員が茶葉のサンプルを持ってきてくれる。十種以上の茶葉の香を嗅ぎ、気に入ったものを注文すると、まもなく菓子、ナッツ、ドライフルーツを盛り合わせたお茶請けとともに、茶器一式が運ばれてきた。一回の抽出分がすでに茶海に注がれており、すぐに飲める状態である。中国茶は種類にもよるが、四、五煎しても十分に楽しむことができるため、追加のお湯を入れた魔法瓶も用意されている。

一階の店舗の喧騒がときどき聞こえてきて、なかなか静寂を楽しむというわけにはいかない。とはいえ十分にくつろぐことのできる空間であった。

翌日は午前中から、忠孝復興駅近くの「CHA CHA THE」という茶藝館を訪れた。大型デパート「そごう」のある駅からは、すこし離れた高級住宅街に目的の店舗があった。空間に余裕をもたせたモダンなインテリア。先客は誰もおらず、ゆったりとしたソファに座を占めることができた。槇の木の盆栽が置かれた光庭にむかつて大きな窓が開いており、曇天だが適度な明るさが保たれている。

供された茶は茶壺に湯を都度注ぐスタイルではなく、はじめから抽出されたものが大ぶりのポットに入れられており、お茶請けは洋風のデザートである。インテリアにもサーブスにもどこことな隙があり、そのためかえってリラックスすることができた。

今回訪れることはできなかったが、ロープウェイで行くことのできる猫空という山に茶藝館が点在しており、台北の夕景を眺めながら茶を楽しむことができるという。ふたたび訪台する機会があれば、必ず行つてみたい場所である。

白酒の紐の如くにつがれけり

白酒は主に雛祭に飲まれるものなので春の季語である。酒器から杯に注がれる様子を「紐」に見立てた一句。「如く」という直喩を用いて、その見立てのみを述べたのが特徴である。紐に喩えられたことで、注がれる酒の形状だけでなく、不透明な乳白色の液体の質感や量、そして注ぐ人の手つきまでを想像させる。白酒の流れを紐と感じられるだけの時間、その形状をぶれさせない安定感などを……。

そして、句中に「切れ」がない一句一章の句姿、つまり、切断部のないひとつづきの文であるというかたちそのものが、ひとすじの「紐」の姿に通じてもいる。「の」という助詞の蓮面としたリフレインも効果的である。

さて「白酒」という液体を「紐」という固体に変化させるということは、流れを固定することであり、時間の操作である。

雛人形は、もともと形代、すなわち人の身代わりとして水に流されるものであった。雛祭は、現代の一般家庭に残されている祭祀のなかでも呪術の名残をとくに色濃くとどめるものである。

芥川龍之介の『雛』という短編に、古い雛人形の息を呑むばかりの美しさが描かれているが、そのように豪華なものでも、雛飾りは年に一度、早春の頃にのみ顕現する宮廷の似姿なのだから、たとえば空条承太郎のスタンドのように時を停止させることができたとしても、さほどおかしくはないのかもしれない。

荒川喫茶瞥々

小林孝圭

今回は東銀座のばじりこにやってきました。歌舞伎座うら、いわゆる木挽町界隈は料亭や高そうな居酒屋がひしめいています。都心なのに高いビルディングもチェーン店もあまり無く、独特のオーラを感じます。下町の飲み屋を愛する私的にはほとんど縁の無い土地ですが。

閑話休題。

ちなみにかの里見八犬傳の作者、曲亭馬琴は閑話休題という言葉に「あだしことはさておき」とルビを振るんですよ。しかも馬琴先生、極度の脱線主義者で、2ページに1回くらいは「閑話休題」を繰り返すのです。

再び閑話休題。

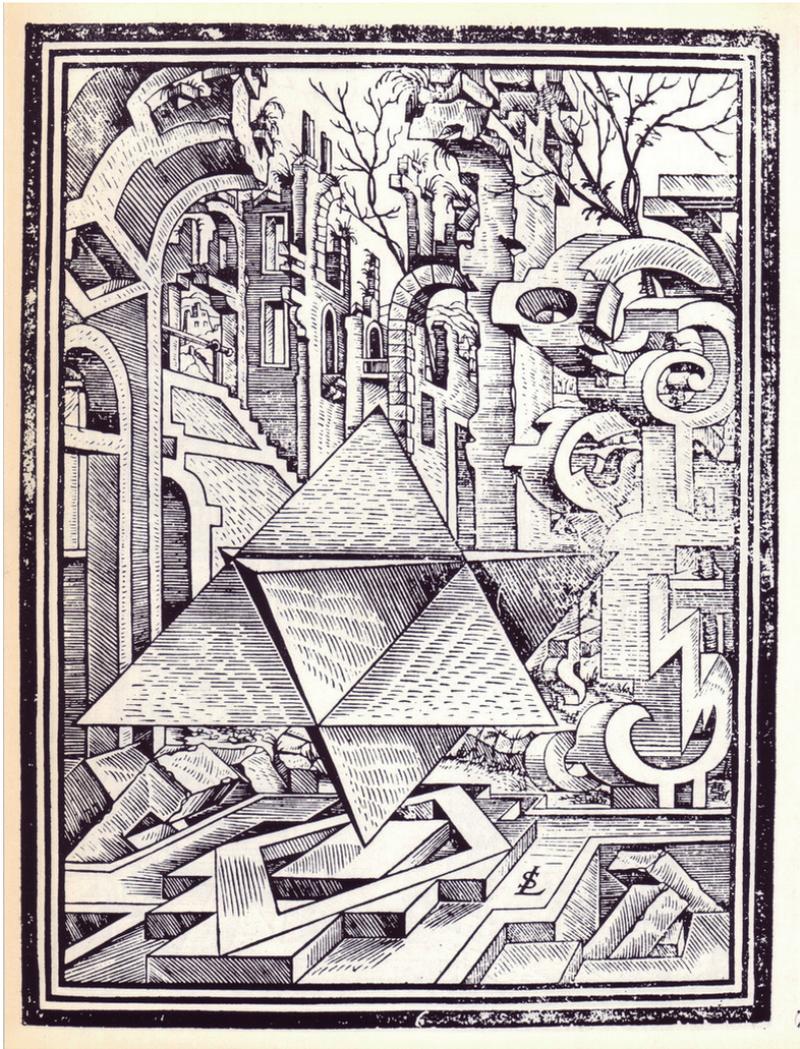
木の扉を開けて一段上がると、ごぢんまりとした店内。今では見なくなつた全面が網目になつて真四角なスピーカーからは、BGMがしごく控えめに流れてきます。壁は年季の入つた木の板張り、皮のソファ、琥珀色のチェイサーグラス。オーソドックスな純喫茶スタイルが素敵なお店でした。オーダーはストロング珈琲。エスプレッソよりひと回り大きなカップに入っていて、普通のブレンド（これはソフト珈琲とよばれる）よりも濃いめに淹れてあるようです。

◆オーダー
ストロング珈琲 400円

◆店舗データ
珈琲ばじりこ

東京都中央区銀座3-15-16





NIGHTMARE PICTURES

—
Geometria et Perspectiva / ローレンツ・ストア

—
ドイツ、ニュルンベルグ生まれの画家ストアが1567年に木版で出版した「幾何学と遠近法」のうち一枚。この冊子は、理想的な庭の設計や廃墟の美学について記されたものなのですが、幾何学と遠近法への度を越えた傾倒のために、実現可能性を全く無視したものとなっています。ナイトメア(悪夢)というよりはマッドネス(狂気)に分類したほうが良さそうな絵です。
(小林孝圭)

Coffee Talk

店が3年目に入ったからというわけではないですが、店主の手記のタイトルを変えてみます。コーヒー屋が今まで何書いてたんだという感じですが、コーヒーに関することも書くようにしようと思います。

オダマガはPDFファイルをWEBからダウンロードしてご自宅でプリントアウトして物質として保管いただく事が可能となっています。なので、店でもらっていたけど引越して店にこれないというような場合なども大丈夫です。

さて、コーヒーの話でも少し。コーヒーを淹れるときにはその豆自体が大切なのもちろんですが、一杯分淹れるのに何グラム使うのかというのを気をつけたところ。お湯の温度などでも味は変わりますが、まずは人力で最も安定させられる部分を固めましょう。ペーターベンは60粒数えていたというような話もあります。最近はいいと言われている比率があり、その数字が60グラム/リットルです。この数字に則って単純計算をして構いません。15グラムの豆であればお湯を250ミリリットル。12グラムなら200ミリリットル。逆に500ミリリットルのお湯なら30グラムといった具合です。ただ好みによるので、自分の好きな量が決まっていな場合などにあくまでこれを基準としてやってみて、好みに応じて豆の量を変えてみるのがいいかと思います。そういうわけで、コーヒーのお話でした。